

実践事例発表レジュメ

研修・研究事業名	教育格差と社会教育
実践事例名（テーマ）	こども食堂と学習支援から、こどもの総合支援拠点の開設へ
事業主体（実施機関）	一般社団法人栃木県若年者支援機構
連携・協力機関等	
発表者	荻野 友香里

期日 2018年 8月 9日

内 容

1 一般社団法人栃木県若年者支援機構について

- ・若者の社会参加、就労支援に取り組むためにスタート（サポステ、中間的就労訓練等）
- ・現在は、子どもから若者まで連続的、総合的に支援する団体へ

2 子どもの貧困対策に関連する事業

2-1 昭和こども食堂

平成 28 年にスタート。毎週月曜日の 17:30-20:00 に営業。毎回約 20 人が利用誰でも来られる場所にアンテナをはる。こども食堂を入口とした様々な活動を展開。他の NPO と連携して自然体験キャンプの実施、来られない子どもへの夕飯お届けプロジェクト等

また、栃木県内のこども食堂が力を合わせ全体の質、量を高めることを目指し、こども食堂サポートセンター・とちぎも開設運営。子どもの SOS のキャッチの仕方等学ぶ

2-2 2つの、学習支援活動

生活困窮者自立支援事業における学習支援事業を、栃木県、宇都宮市等からの委託を受け実施。約 200 人の小～高校生の子どもたちがそれぞれの教室に通う。利用要件に合わないが支援の必要な子どもたちもいる。その受け皿として、自主事業としての子ども寺子屋事業を県内 8 カ所で実施。

月曜日にはこども食堂とこども寺子屋の両方を行ってきて実感した組み合わせの価値。食べる、学ぶだけを切り取ることはできない。生活を見る。

3 子どもたちを総合的に支える拠点を市民の力で作る試み「キッズハウス・いろどり」これまでの活動を踏まえ、全ての子どもたちの、食べる、学ぶ、遊ぶ、安心を支えるための拠点（家）づくりを開始。資金はクラウドファンディングと寄付で 300 万円集めた。食堂、居場所、学習支援、そして新たな取り組みとして外国にルーツを持つ子どもたちの居場所・学習拠点として 8 月より運営を開始する。